

# 南波止場1番地

鈴木志郎康のb2evolution blogです

## アーカイブ: 2013年4月

### 2013/04/04

🕒 18:25:00, カテゴリ: [memo](#), views: 1518 | 🇯🇵

#### 渡辺洋詩集『向日 歌う言葉』（書肆山田2010年刊）の感想

この感想を書く切っ掛けは、まず3月30日の午後に渡辺洋さんとわたしを入れて6人でビールをに飲みながら（わたしはノンアルコール）料理を食べている時、詩を巡る四方山話が進んで、渡辺さんの詩集『向日 歌う言葉』が3度読んだけどどうもよく理解できなかったというわたしの発言になったのです。

そして、翌日の3月31日に渡辺洋さんはtwitterで、「ぼくの詩集『向日 歌う言葉』は、ぼくが生きているという事実が伝わってこない、3回読んだけど理解できないと、鈴木志郎康さんに面と向かって言われたことは、ここに書いておきましょう。つまり、そのくらいシビアなところもある飲み会なのよ。」とつぶやいて、更に

「こういう詩、こういう詩を書く人間がいるということが、志郎康さんの想像力の外のことになってしまったのかもしれないね。」とつぶやいたんですね。

そこで、わたしはもう一度ちゃんと読んでみようという気になったのです。そして最初の「向日」を引用して、そこに使われている「世界」という言葉になじみが無いとツイートすると、渡辺さんから

「自分でする説明が正しいものかどうかは分かりませんが、全体に鬱病からの社会復帰というのが、ベースにあると思います。『思います』って自分で言うのも変ですが。」

という返事がありました。わたしはこの返事で詩集を理解する切っ掛けを得たように思い、再度詩集を読み直して感想を書くに到ったのです。

詩集『向日 歌う言葉』の詩を読んでいくと、詩の作者が感じて意識して考えていることと、わたしが日頃感じ考えているとはかなり違うというように思えてきました。この現実で生活している作者はこの現実を生きにくいと感じて絶望して、自分が生き生きと出来る世界を求めているように思えるのですが、現在のわたしにはそういう思いはありません。でも、これらの詩篇を更に何度か読み返すと、自分のそういうのほほんとした生活態度でいいのかなあとちょっと気がかりになりました。

さて、この詩集の作者は、吹いてくる方向も定まらないビル風のように吹き付けてくる自分にそぐわない言葉に曝されていて、孤独に「さわやかな投石のような言葉をさがす」、また「言葉の瓦礫にうずもれているぼくを呼び起こして青空に放り出す言葉をさがす」ことが問題なのですが、なかなかそういう言葉が見つからないが、「ぼくは朝を待つ言葉で話したい」、つまり希望に満ちた言葉を語り合いたいということなんですね。そういう「場所」に辿り着こうとしている、その苦悩が前半の「向日」というタイトルの6篇の詩では語られていると受け止めました。

ところで、「ビル風のように吹き付けてくる自分にそぐわない言葉」とか「ぼく」が「うずもれている」「瓦礫の言葉」というのは現実のどういう言葉なのか、作者にとっては何明のこととして具体的は示されていませ

## 南波止場1番地

南波止場1番地の鈴木志郎康の家

- [最新](#) (キャッシュ)
- [最新](#) (キャッシュされない)

2013年4月				
日	月	火	水	木
		1	2	<u>4</u>
7	8	9	10	11
14	15	16	17	18
21	22	23	24	25
28	29	30		
<< <				

- [最近のコメント](#)

## Heavy Hitters

- [白鳥信也詩集『ウォー! カー』の詩の解説](#) (13 visits)
- [愛を生ききる台詞 水邦夫の戯曲について](#)
- [長尾高弘詩集『右向け! 年4月6日発行』](#) (10 visits)
- [「第6回萩原朔太郎賞受 鈴木志郎康」に行っ](#) (visits)
- [坪田義史監督作品『美! 気分』『ガロ』の漫画の境涯](#) (8 visits)
- [渡辺洋詩集『向日 歌う言葉』\(書肆山田2010年刊\)の感想](#)
- [森三キ工詩集『沿線植](#) (visits)
- [須永紀子詩集『空の庭、想](#) (6 visits)
- [五十嵐倫子詩集『色ト! の感想](#) (6 visits)
- [南原充土詩集『笑顔の](#) (6 visits)
- [表現の現前性\(多摩美術 劇学科年報「映像演劇](#) (visits)
- [Ex@lorerからの書き込](#)

んが、察するところでは、資本の流れに乗って書かれ語られ、権威付けられて、人々の心を眠らせるメディアの言葉ということになるように思われます。というのは、前半の「向日」詩篇では作者の苦悩が語られているが、「歌う言葉」のパートに置かれた10篇の詩は、いわば「瓦礫の言葉」が「ビル風のように吹き付ける」現実に対して、自分の意志で現実に向かい立って発信しようという思いとそういう表現を実現している人たちに寄せる思いを語っているからです。

「歌う言葉」のパートの最初の「春のように」という詩では、

自分のことばかり話そうとしていた季節から  
 きみの話を聞きながら少しずつ抜け出していきたい  
 誰かに聞いてほしいと思いつづけていた話もわすれて  
 自分でも思い出すことすらなかった話をはじめられたら

というように、自分を取り戻して現実に向かって発言して行こうという気持ちを語っている。また「本を読む」という詩では、反政府的な言語活動をしているトルコの作家に思いを寄せて、

トルコの作家オルハン・パムク  
 彼の小説『雪』の英訳をインターネットで買う  
 日本の地上の本屋が  
 金儲けやストレス解消のための  
 一〇〇円ショップになってしまった時代  
 言葉の向こうにいるのは数字になってしまった人間

雪に閉じ込められた  
 原理主義と民族対立にゆれるトルコの一地方を  
 反政府的言動からドイツに亡命していた詩人が訪れる  
 新聞に依頼された取材を口実に  
 都市では失われた故国らしさを残す街で  
 同級生だった女性に会うために  
 そして自分の詩を取り戻すために

という闘う姿勢を見せるような気持ちを語っています。

「歌う言葉」の後に置かれた「私は断固として闘います」という尊敬する「T先生」に寄せる思いを語った「向日7」からの三編の「向日」は、つましく密やかに現実に向かって行こうとする気持ちが語れていると受け止められます。この詩集の最後には、

あたらしいシャツのように  
 はじめてのラジオのように  
 私たちを分けへだてる  
 ちいさな怒りをとかすスープのように  
 一行でも世界を書き直そう  
 心に風をあててなびかせていこう

と書かれて終わっています。

二、三度読んで掴み損ねていた渡辺洋さんの『向日 歌う言葉』を何とかわたしなりに読みこなして見ました。渡辺洋さんのtwitterのつぶやきを見ると、反原発のデモに行かれたり、原発事故の被害状況を訴えるツイートや朝鮮人の対する暴言デモに反対するツイートをしきりにリツイートしていたりして、社会運動に感心を持って参加しているように見受けられます。そうした現実の社会と向き合った時の「一行でも世界を書き直そう」とする詩の言葉がどういうものになるのか、今後の渡辺洋さんの詩を見ていきたいと思えます。

## 検索

- 全ての語
- いずれかの語
- フレーズ

## 検索

## カテゴリ

- [All](#)
- [memo](#) (24)
- [日記](#) (4)

## 選択

## アーカイブ

- [2013年4月](#) (1)
- [2010年8月](#) (1)
- [2009年8月](#) (2)
- [2009年7月](#) (2)
- [2008年12月](#) (1)
- [2008年10月](#) (1)
- [2008年9月](#) (3)
- [2007年12月](#) (1)
- [2007年11月](#) (2)
- [2007年10月](#) (3)
- [2007年5月](#) (1)
- [2006年6月](#) (3)
- [続き...](#)

## いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

## このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)
- Atom: [投稿](#), [コメント](#)

• [編集](#)



[What is RSS?](#)

powered by  
**b2evolution**

Original template design by [François PLANQUE](#).

